

令和5年度第3回船橋市博物館協議会議事録

(令和6年3月22日作成)

1 開催日時

令和6年3月5日（火曜日）午後1時00分～午後4時00分

2 開催場所

国立歴史民俗博物館（佐倉市）

3 出席者

- | | | | | | | |
|---------|------------|-------|--------|-------|------|------|
| (1) 委員 | 木原委員 | 正法地委員 | 川口委員 | 高見澤委員 | 寺門委員 | 吉岡委員 |
| (2) 事務局 | 郷土資料館 | 金子館長 | 白石館長補佐 | 小田副主査 | | |
| | 飛ノ台史跡公園博物館 | 田久保館長 | 井原館長代理 | | | |

4 欠席者

なし

5 議題及び公開・非公開の別並びに非公開にあつては、その理由

(1) 国立歴史民俗博物館の視察

午後1時から午後2時まで、総合展示を見学した（希望する委員は郷土資料館学芸員による展示解説を受けた）。

その後、午後2時からガイダンスルームにて、学校団体対応担当職員から、同館における取組について説明を受け、質疑応答・意見交換を行った。

(2) 会議の公開・非公開の別

非公開：船橋市情報公開条例第26条第1項第3号に該当するため

6 傍聴者数

他の博物館視察のため、傍聴者はなし

7 決定事項

他の博物館視察のため、決定事項はなし

8 議事（主な感想）

国立歴史民俗博物館管理部広報サービス室職員2名による説明を受けた委員からの感想等。

【委員の感想】

1. 今回の視察についての意見、感想

- ・ 博学連携という観点からは大変面白く、有意義だった。ただ、学校以外のルートにおける地域との関わりについても話を聞けると有難かった。相手が国立の機関ということで、関が高いと感じている住民も少なくないと思われる。そうした人たちに対してどの

ような働きかけをしているのかを知りたいと思った。

- ・ 国立歴史民俗博物館に今回初めて行きましたが、施設の大きさと広さ、展示物の多さにおどろきました。見学後に資料をいただいて広報の方からのお話を聞いて、博物館見学を授業に組み込む難しさもあるということがわかり、学校の先生のご苦勞を感じました。

素人の私が、充実した博物館だからとりあえず行ったらいいというわけではないという、単純なものではないということが分かりました。

- ・ 第一、二、四展示室の案内を受けての感想は、全体的には見学する人の立場を配慮した展示に徹している事。研究者の言葉を今通じる言葉に置き換え表現されて分かり易い。また「写真の展示を探してください」と様々なシーンで呼びかけると言う、参加を導く手法が巧みで効果が伺えた。
- ・ 学校教育と博物館での学習についての講話は、見学の受け入れ方のハード面と見学内容のソフト面が熟慮された仕組み作りがされている。学校の先生への歴博利用ガイドを初め、PR活動に余念がなく、見学者の目的を明確にしてそれに沿った学習の場を提供していることが良く理解できた。
- ・ 歴博の各展示室はリニューアル後、ビジュアル重視という形となり、より親しみやすくなりましたが、通史という面はより見えにくくなった印象です。児童・生徒に対してインパクトの強いものを鑑賞ポイントとして廻らせていくとのことで、説明にあったように館は「ハード面の提供」であり、それをどう教育に活かすかは教員次第なのだと実感しました。学校側は歴史教育のためというより、校外活動として公共の交通機関や施設での所作を学ぶということを求めているのかもしれませんが。すべての需要に応えるべきなのか、「博物館」とはなにかを考えさせられました。

2. 国立歴史民俗博物館の取組で、本市が学ぶべき点

- ・ 組織面でも予算面でも規模が違うので、具体的にこの部分をというのは難しい。しいて言えば、博学連携とは別の基本的なことだが、展示を通して歴史や文化をかたるという営みがいかに重要で、かつ難しいかということを改めて感じさせられた。博物館の運営にはそれなりの覚悟が求められるということなのだろう。

なお、歴博では、たとえば終戦後のヤミ市の展示に見られるように、庶民生活の裏面史も描かれているが、こうした柔軟な姿勢には学ぶべきことが多いと思った。

- ・ 本市でも行っているかもしれませんが、屏風や火縄銃などの貸出しは良いことだと思います。レプリカを実際に手に持つことで子供が興味を持ってくれるのではと思います。
- ・ 優しく分かり易い言葉で説明表現に努めること
- ・ 参加型展示方法による関心度と理解度を高めること
- ・ 学校への博物館学習の意義を伝える方法を充実させること
- ・ 見学の目的を事前に把握し、目的に沿った学習内容を充実させること
- ・ 博物館学習の成果を確認して、将来への取り組みの糧にすること
- ・ 国立と市立ではその設置規模も目的も異なるものだと思います。一概に取り入れられるものは少ないながら、事前に先生方へ配布する資料や相談、動画などのソフト面を充実

させることによって実際の来館時にはハード面の提供のみですむ、というシステムはよくできていると思いました。市としては歴博で見たことや授業で学んだことをより身近な歴史・生活へ結びつけることに重点を置くといった、歴博と協働することもあるって良いかと思います。また歴博は複製が多いので、本物を見る（可能なら触れる）など「歴博では提供しないこと」に注目するのもいいのではないのでしょうか。